

令和2年度 小林市立三松中学校

学校関係者評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待をした回る 1：改善を要する

■ 学校経営ビジョン

“Chance・Challenge・Change”（自らを見つめる目と目標をもってチャンスをつかえ、アクティブに挑戦して、成長につなげる）

：「かかわりと見届けの教育」を通して信頼される学校づくりを推進し、夢や目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。

重点 目標	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等 ○よかった ●反省点 ▲課題 *改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価コメント
確 か な 学 力 の 向 上	1 わかった・できた喜びを実感させる「基礎・基本の定着」と「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・1月実施の実力テストが全学年とも地区平均点以上、 ・授業でICTタブレットを活用できる教員66%以上、 ・英語検定取得率35%以上、 ・きちんと立腰する生徒100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業の全員実施により、授業改善に対する意識が変わった。授業改善につながるきっかけとなった。 ○ 研究授業が計画通り実施できた。 ○ パソコン研修を実施した。 ○ ICT活用が向上している。 ○ テスト分析により苦手分野の補充の時間確保を行い指導することでできた。 ● タブレットの常時活用ができなかった。（機器が教師及び全生徒に備わっていない） ● ICTの活用については、まず、教師自身がタブレットに慣れる必要がある。学ぶべき内容が多い。 ● 家庭学習の習慣に個人差が見られるので課題の与え方の工夫も必要である。 	2.7	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力については、個人差があるので、その差を埋めることは大変なことと思います。小さい成功体験を積み重ねると自ずと目標達成に近づくと思う。 ・ タブレットを使用した授業では、生徒が生き生きとした表情で取り組んでいたのが印象的だった。探究心や視野を広げる効果も期待できると思う。 令和3年度より生徒数の配付が予定されている一方、先生方へ一人一台の配付がなければICT活用に支障をきたし、ネット環境や機器の確保など環境整備が必要だと感じる。また、タブレット使用に慣れない先生の負担増になることが懸念される。 ・ 今年度前半はコロナの影響で学校が休校となり、授業時間が削られた中、授業時間の確保は大変だったと思う。しかし、ほぼ例年通りの授業時間の確保ができたのは、先生方の努力の賜物と思う。感謝している。 ・ タブレット操作に係る先生方の講習会が必要ではないかと思う。 ・ 全生徒へのタブレットが備わるのはよいと思う。今後社会で必須である。 ・ 13歳のハローワークではコロナ禍の中、例年同様数の講話があったとの報告を受けて嬉しく思った。地域の方とふれ合いも兼ねているこの取組を今後も続けていただきたい、 ・ いろいろな職種の方から話を聞ける環境ができるとよいと思う。 ・ 目標設定や結果の反省、これからの取組と丁寧な説明を受け、良く理解できた。地域でできる事は惜しまない。 ・ 自己の目標を早く見つけることはよいと思う。地域の方々の講話の機会を増やすことは重要だと思う。
	2 学習で習得したことを自分の生き方に活用できるキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び態度」60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「13歳のハローワーク」は、地域の方々の講話が生徒により影響を与えている。 ● 小中一貫について、職員同士のコミュニケーションがとれていない。 ● 小・中合同研修会がほとんど機能していない。 * 課題意識の共有に重点を置いて研究会の内容を精査していくことが必要である。 	2.5		
	3 ユニバーサルデザインと個々の課題やニーズに応じた教育支援		<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリアパスポートを有効に活用することはできた。 ● キャリアパスポートに記入させることで終わっているので、系統性を持たせ、効果を考える必要がある。 ● 地域人材をまだ活用できていない。 	2.9		

豊かな心の醸成	1 生徒指導の三機能を生かしながら自己指導能力を育む積極的な生徒指導の推進	・自分の役割を果たす生徒 100 %	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会が自主的活動をできるようになってきた。 ○ 学級集団のルールを徹底して、生徒主体の取組が増加している。 ○ 生徒会活動や学級において自己存在感を認識できる場面が多くなった。 ○ いじめ追放宣言によりいじめ認知件数を減らすことができたのではないか。 ● 生徒会活動の活性化させるために、サブリーダーの育成が必要である。 ● 自治活動の生徒への意識がまだまだ低い。自己決定しプランニングができるように、きっかけを与えることが必要である * 一部落ち着きのない生徒はあるが、全体的には落ち着いていると難じる。一部の生徒に関しては、職員全体での日常的指導がもっと必要である。 	2. 6	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に行くと大きな声であいさつをしてもらっている。とても気持ちが良い。コミュニケーションが一番大切な事なので、今後もあいさつの徹底をお願いしたい。 ・ 生徒のあいさつについて苦言を呈したが、改善傾向にあり本来の三松中の姿を取り戻したのは先生方のご指導の賜物と思う。生徒の変容が嬉しく、先生方に感謝申し上げます。 ・ 生徒の宣言文が掲示されており自己啓発を図っていた。公表することで目標が明確になり効果に繋がっている。 ・ 委員会活動の掲示板に言葉遣いについて記され、注意喚起してあった。相互理解や気遣いの強化も充分になされている。 ・ コロナの影響により授業参観は一度の機会であった。保護者は私語を慎み真剣に参観する態度は、ここ数年と比較して改善が図れている。 ・ いじめ対策として月1～2回のスクールカウンセラーの関わりやソーシャルスキルトレーニングの実施にて生徒の困りごとをどう乗り越えて対応するか、本質の把握や分析など個別対応する取組が功を奏している。 ・ 無言で清掃できることは、たいへん素晴らしい。
	2 「時を守り、場を清め、礼を正す」相手意識をもった日常における礼法指導	・職員の自己評価4段階で3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無言清掃の徹底ができています。 ○ あいさつや、清掃、時間厳守の向上ができています。 ○ 1分黙想がどの学年も定着してきた。 ● あいさつや言葉遣いについて、日常において実践にまだ結びついていない。 ● 自分たちの事として、考えを深めさせることができていない。 ● 当たり前のことが当たり前でできる「凡時徹底」を指導していく必要がある。 	2. 8		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が主体となって企画・立案した行事があるとよいと思う。
	3 居心地の良い温もりのある「居場所」と互いを高め合う「絆」のある学校・学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の不登校0 ・いじめの解消率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ Q-Uの結果分析により、生徒への対応を学年ごとに共通理解して、生徒への支援ができた。今後の見通しを持た。自治レベルが向上した。 ○ 1月現在、いじめ解消100%を達成できている。職員間のアンテナを高く、情報をキャッチして組織的に対応できている。 * Q-Uの結果分析を基に、生徒との関わり（生徒指導）や教育相談のあり方をこれまで以上に工夫する必要がある。 ● 新規不登校0にすることができなかった。 	2. 7		<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ解消100%は素晴らしいと思う。いじめる側は認識しないケースもある。いじめられる側は言い出せないことが多いので、これからもアンテナを高くお願いしたい。
	4 心身に健康をもたらす毎月の読み聞かせと金曜日の朝読書	・読書の一人平均12冊以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放送等を用いて啓発ができており、読書への意識が高まっている。 ● 読書に対して興味・関心をもたせることが難しい。 ● 読書はするものの1ヶ月に1冊全員読むのは難しい。 ● 本を全く読まない生徒への手立てが必要である。 	2. 6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字離れが気になる。 ・ 本を読まない生徒を一人でも減らしていただきたい。 ・ 読書について「本を読もう」ではなく「図書室に行こう」というアプローチの仕方もあると思う。人気のある図書館や本屋には、入ってみたいくなる仕掛けがいろんな所にあるように感じる。参考にされるのも面白いと思う。

健やかな体の育成	1 心地よい汗をかく基礎体力づくりの推進	・体力テスト48項目中24項目以上が県平均以上	○ 総合的な体力向上に向けた取組を体育授業で毎時間取り入れている。 ● 年間通しての体力向上への取組が不十分である。 ● 体力向上への意識が生徒・保護者とも低いように感じる。 * 一人一人に目標設定を持たせ達成状況をチェックする。	2. 9	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> 虫歯治療について「医療費」の面から生徒や特に保護者へ啓発されてはいかがなものか。 学校周辺に歯科医院が数年前に新設され治療しやすい環境が整ったにも関わらず虫歯治療の重要性や身体にもたらす悪影響など、保護者や生徒の認識の低さが治療に繋がっていない事が窺える。治療しない要因を探り対応する必要があるも思う。 虫歯治療率が低いのは、生徒よりも保護者の意識が低いと思う。 性教育講演内容は、現実的ではなかった。少しストレート過ぎる内容もあったが、親からなかなか伝えることのできない話だった。
	2 学校保健委員会を活用し保護者と連携した健康教育の推進	・虫歯治療率75%以上	○ 性教育に関して年2回の重点週間や授業は、生徒にとって大変意義のある内容となっている。生命の尊さについて考えるよい機会である。 ○ 虫歯治療の啓発や集会など献身的に行っていた。 ● 虫歯治療率が低い。本人や保護者の意識が低い。	2. 7		
望ましい食習慣の定着	1 マナーを高め、感謝の心を育てる給食指導と栄養教諭との連携を図った「食育」の推進	・給食の残食ゼロ	○ 給食の残食がほとんどなくなった。 ○ 栄養教諭との家庭科の授業において、給食センターの様子や献立を立てる時の思いを生徒が聞くことで、バランスのとれた給食をしっかりと食べなくてはいけないという気持ちになった生徒が多かったと思う。行動の変容に期待している。 ● 残食は、だんだんと減ってきたが、適量として作られた分量が食べきれない。多少の個人差はあるものの、食べきる指導が大切である。	2. 8	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> 給食の残食がほとんどなくなった点について高く評価している。 食欲は運動にも比例すると思う。運動量の確保が残食を減らせると思う。
	2 充実した「弁当の日」の取組と朝食摂取100%に向けた啓発活動	・自分で作った弁当を持参する生徒100%、 ・朝食欠食0%	○ 朝食の摂取数は増加した。朝食を準備してもらえない生徒については、虐待ではなかった。 ○ 弁当の日の意義を理解させるために、給食主任作成のワークシートを基に計画的に指導ができた。 ● 弁当の日の取組は家庭によって差があった。 ● 朝起きられなくて朝食を取れない生徒がいた。 * 弁当の日は、こすもす科だけではなく家庭科や保健体育科と連携を図る必要がある。 * 保護者への啓発が必要である。	2. 5		

その他	1 時間管理と計画的な業務の遂行による効率化、三松中学校部活動の方針に基づく活動休養日の設定の徹底、会議・校内研修等における時間の効率化を図ることにより、全職員の健康維持とリフレッシュを図る	・月当たりの時間外業務80時間以上ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度と比較して80時間超えはかなり減少した。 ○ 部活動練習時間の効率化が図られている。 ○ 個人的には時間外業務が減った。 ● 勤務時間内に仕事を終えるのは難しい。 ● 学年会が少なく、職員間の共通理解を図る時間が不足が心配である。 ● 時間管理を計画的、効率化の業務遂行には課題があり、改善していきたい。 ● 空き時間と業務のバランスがとれず、時間外でないと難しい仕事もある。 * 校務におけるICT化をさらに進める。 * 月時間外45時間は現実的ではない。日常の部活動指導で月40時間は超える。部活動終了時刻を年間通して18時にするなどの対策が必要である。 	2. 9	3. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方は、通常業務に加え、生徒間の問題など想定外の事にも柔軟に対処していただいております。生徒のために真摯に取り組む先生方の状況改善には、全国的に課題等もありますが負担軽減が図れるよう切望します。 ・ 働き方改革は一気には進まないで、継続して取り組んでいただきたい。 ・ 部活動終了時間を年間通して、18時にする対策も個人的にはよいと思う。 ・ 中学校の先生方は、毎日夜遅くまで学校に残られており、大変だと感じている。 ・ 先生方におかれては部活動等、時間外の業務等、深く感謝申し上げます。
	2 職朝でのミニ研修、校外研修会後の出席者から全職員への還元を通して、自己研鑽する教職員の育成を図る		<ul style="list-style-type: none"> ● コロナの関係で、校外研修のほとんどが中止であった。 ● オンラインでの校外研修については、有効に還元していきたい。 	2. 4		

次年度の方向性についての校長所見	<p>本年度の学校関係者評価では、5項目とも3を超える評価をいただいた。コロナ禍の中、感染防止に努めながら教育活動を行うことができ、継続的・実践的な取組の効果が高まってきたと考える。</p> <p>次年度も知育・徳育・体育・食育のバランスのとれた生徒の育成を目指していくが、特に「確かな学力向上」と「豊かな心の醸成」を重点課題として、学校の教育目標の具現化を図ってきたい。</p> <p>学力の向上として、主体的・対話的で深い学びの実現を通して、「わかった・できた」喜びを実感させ、「できることをより伸ばす」授業づくりを目指し、手立てとして、視覚的に捉え、思考を深めるICT（タブレット端末）の活用を推進していきたい。</p> <p>心の醸成として、自己効力感を感じる居心地の良い温もりがあり、互いを高め合う魅力ある学校・学級づくりを目指し、「個別支援」、「集団指導」、「情報モラル指導」を通して生徒が主体となって活動する「居場所づくり」「絆づくり」に取り組んでいきたい。</p>
------------------	--